



第90期 株主通信

2020.4.1~2020.9.30

株式会社SUBARU IR部SR室

株主の皆様には平素よりご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

第2四半期累計期間の業績(4~9月)

第1四半期決算(4~6月)は大変厳しいものでしたが、第2四半期累計期間(4月~9月)では営業利益、四半期利益ともに黒字を確保することができました。しかしながら新型コロナウイルス感染症拡大の影響が大きく、前年同期を下回る結果となりました。

自動車の売上台数は前年同期比27.9%減となる36.3万台、売上収益は同24.1%減の1兆2,184億円となりました。その結果、営業利益は同67.7%減の306億円、親会社の所有者に帰属する四半期利益は同65.3%減の237億円となりました。

当社の重点市場であります米国において、想定よりも早い回復基調が見られており、特にSUBARUの小売販売は9月・10月と2ヶ月連続で前年を超えることができました。新型コロナウイルス感染症の影響を受け生産を一時停止したことにより、不足気味であった在庫も徐々に回復しており、年末までには適正な水準に戻る予定となっております。

通期業績見通し(4~3月)

第1四半期決算時点での見通しに対し、米国を中心に7~9月の販売実績が想定を上回ったことなどにより、売上収益は前期比11.8%減の2兆9,500億円、営業利益は同47.7%減の1,100億円、親会社の所有者に帰属する当期利益は同47.6%減の800億円に上方修正いたしました。

一方、足元では米国の新型コロナウイルス新規感染者数が増加傾向にあり、移動や営業が制限されているなど経済活動の制約は大きく、新車販売の本格回復に向けた状況は不透明です。引き続き、世界各国の生産・販売拠点において感染予防対策をしっかり行い、お客様、従業員とその家族、お取引先様など関係者の皆様の安全を最優先にしつつ、通期業績見通しの達成、さらには本格的な回復軌道に乗せるべく、グループ一丸となって取り組んでまいります。

新型レヴォーグ発表

私たちSUBARUは、「安心と愉しさ」を普遍の提供価値とした個性的で魅力ある商品を通じて、お客様の笑顔をつくるブランドでありたいと考えております。今年10月15日に発表した新型レヴォーグは、1989年に発売したレガシィ以来の「より遠くまで、より早く、より快適に、より安全に」というSUBARUのグランドツーリング思想を継承し、「ワゴン価値」をさらに高めるとともに、SUBARUが現在持ち得るすべての技術を結集し、「先進安全」「スポーティ」の価値を革新的に進化させたパフォーマンスワゴンです。私たちのマザーマーケットである日本は引き続き重要な市場と捉えており、最新の技術は日本のレヴォーグから投入するという想いでつくり上げてまいりました。次世代SUBARUのトップバッターを担う車種である新型レヴォーグを裏面に特集しておりますので、是非ご高覧ください。

株主の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

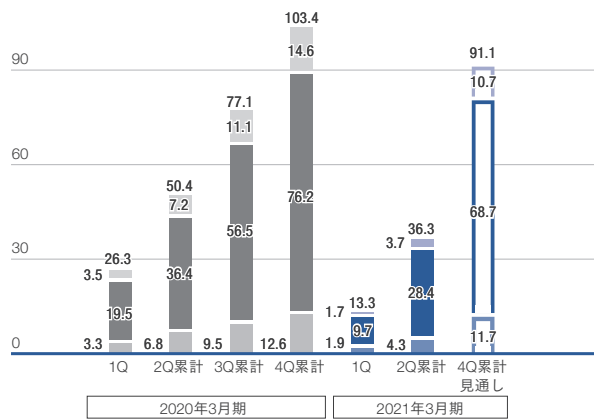
2020年11月30日

代表取締役社長 中村知美



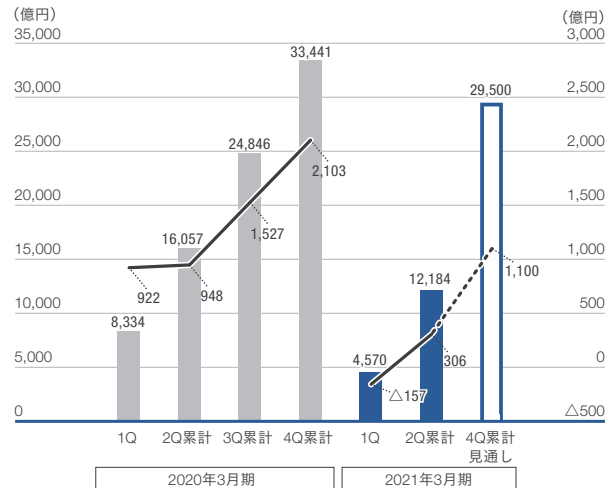
自動車売上台数

■国内 ■北米 ■その他

(万台)
120

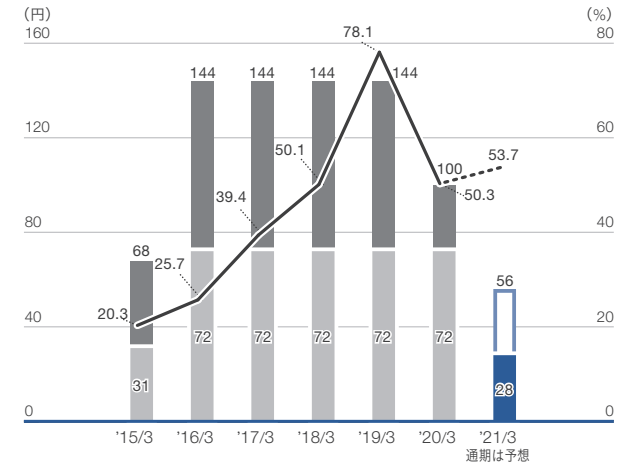
売上収益・営業利益

■売上収益 — 営業利益



配当金・配当性向

■配当金 — 配当性向



2020年3月期より国際財務報告基準(IFRS)を任意適用しており、2019年3月期の配当性向はIFRSベースに組み替えて表示しております。また、2018年3月期以前は、従来の日本基準で表示しております。

自動車生産台数(4~9月)

第2四半期累計期間(4~9月)の自動車生産は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、海外拠点では3月下旬より、国内拠点では4月上旬より生産を一時停止し、いずれも5月上旬に再開しました。しかしながら、サプライチェーンおよび販売活動への影響が続いたことから、海外は5月末まで、国内は6月下旬まで生産量の調整を行いました。7月以降の生産は、北米の販売が想定よりも回復が早かったこともあり、前年同期並みの水準となりました。以上の結果、海外と国内の生産台数の合計は35.4万台と前年同期比14.4万台(28.9%)の減少となりました。

自動車売上台数(4~9月)

重点市場である北米においては想定よりも早く販売が回復していますが、新型コロナウイルス感染症の拡大による影響は大きく、海外は32.1万台と前年同期比11.5万台(26.4%)の減少、国内は4.3万台と前年同期比2.5万台(37.4%)の減少となりました。以上の結果、海外と国内の売上台数の合計は36.3万台と前年同期比14.0万台(27.9%)の減少となりました。

売上収益(4~9月)

7~9月は、重点市場である北米の販売が新型コロナウイルス感染症の影響から想定よりも早く上向き、自動車生産および売上台数は前年並みの水準まで回復しました。しかしながら、第1四半期(4~6月)に受けた生産・販売への影響が多大であったことから、第2四半期累計期間(4~9月)の売上収益は、自動車売上台数の減少により1兆2,184億円と前年同期比3,873億円(24.1%)の減収となりました。

営業利益(4~9月)

販売管理費の圧縮や保証修理費の減少により諸経費等が減少したものの、自動車売上台数の減少により、第2四半期累計期間(4~9月)の営業利益は306億円と前年同期比642億円(67.7%)の減益、税引前四半期利益は361億円と前年同期比570億円(61.2%)の減益となりました。また、親会社の所有者に帰属する四半期利益も、237億円と前年同期比446億円(65.3%)の減益となりました。

通期業績見通し(4~3月)

通期の売上収益は2兆9,500億円と前期比3,941億円(11.8%)の減収、営業利益は1,100億円と前期比1,003億円(47.7%)の減益、税引前利益は1,170億円と前期比907億円(43.7%)の減益、親会社の所有者に帰属する当期利益は800億円と前期比726億円(47.6%)の減益を見通しております。

なお、通期業績見通しの前提となる為替レートは¥106/US\$、¥120/EUROです。

配当(4~3月)

当社は株主の皆様への利益を重要な経営課題と位置付けており、毎期の業績、投資計画、経営環境を勘案しながら、継続的かつ安定的な配当を基本としつつ、業績連動の考え方を取り入れております。新型コロナウイルスの全世界的な感染拡大による先行き不透明な事業環境および今後の資金需要などを含めて総合的に検討しました結果、中間配当は1株当たり28円とさせていただきます。また、期末の配当予想は1株当たり28円とし、年間配当は1株当たり56円と予定させていただきます。

1 人を中心とした自動車文化



貢献するSDGs

2025年のありたい姿

人の心や人生を豊かにする
パートナーとなる企業となる。

重要と考える理由

SUBARUグループは、人々の多様な価値観を尊重し、多様な市場価値に対応した個性的な商品を提供していくことで、お客様の選択肢を増やすことに貢献してきました。

私たちは、クルマを単なる移動手段ではなく、人の思いを受け止め、それに応える「人生を豊かにするパートナー」であると考えます。

「モノをつくる会社から笑顔をつくる会社へ」SUBARUグループはこれからもお客様一人ひとりの「安心と愉しさ」といった人の「感性」を大切に、人生におけるライフスタイルやライフステージの変化とクルマを結び、人が主役の自動車文化の発展と普及を担っていきます。

「安心と愉しさ」を追求し続ける
SUBARUのコアテクノロジー



2 共感・共生



貢献するSDGs

2025年のありたい姿

広く社会から信頼・共感され、
共生できる企業になる。

重要と考える理由

SUBARUは、企業活動を行っていくうえで重要となるステークホルダーの一つが、お客様と地域社会であると考えています。「お客様第一」はもちろんのこと、事業を展開する地域社会においても、多くの人々にSUBARUは支えられてきました。

SUBARUは、日頃のコミュニケーションを通じて、お客様には商品やサービスに対し、また地域社会には地域における企業活動に対し、信頼され共感していただくことで、共感・共生のコミュニティを形成し、企業としての持続的成長を図っていきます。

「共感・共生」を目指し、5つのプロミスを掲げて
全米で取り組みを推進



3 安心



貢献するSDGs

2025年のありたい姿

すべてのステークホルダーに「最高の安心」
を感じていただける企業になる。

重要と考える理由

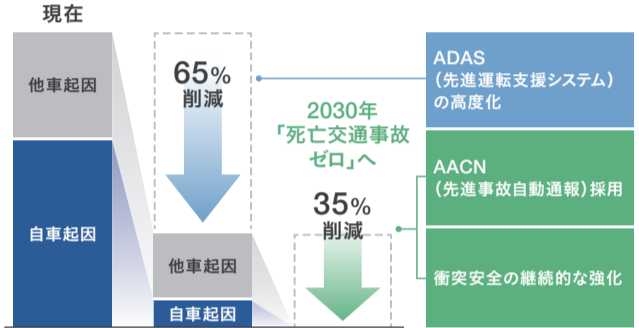
SUBARUは、クルマに求められる安心感を、クルマづくりやサービスを通して実現します。

お客様が安心して長く使い続けていただける「品質」No.1を目指し、品質に関わる全プロセスを不断に見直していきます。そして、「人の命を守る」ことにこだわり、2030年に死亡交通事故ゼロ[※]を目指して取り組みます。他方で、地域で操業する製造業として地域社会にもSUBARUなら安心とと思っていただくこと、またSUBARUグループで働くすべての人々が安心して働け、かつ、安全な職場環境をつくることも不可欠です。さらには、交通事故などクルマに関わる社会課題の解決にも貢献していきます。SUBARUは、お客様・地域社会・従業員をはじめとするすべてのステークホルダーにとって、「最高の安心」を感じていただける企業となることを目指していきます。

※ SUBARU乗車中の死亡事故およびSUBARUとの衝突による歩行者・自転車等の死亡事故をゼロに

死亡交通事故ゼロに向けたシナリオ

SUBARUの死亡交通事故(米国FARSデータから推定)



SUBARUグループ CSR重点6領域

当社は中期経営ビジョン「STEP」にて「モノをつくる会社から笑顔をつくる会社へ」という2025年のありたい姿を描きました。その実現に向けてCSR重点6領域の活動をさらに進め、真のグローバル企業として社会から信頼される企業となることを目指し、より豊かで持続可能な社会づくりに貢献していきます。

CSR
BOOK
トップページ

CSRレポート

SUBARUのCSRの詳細は
ホームページをご覧ください。
<https://www.subaru.co.jp/csr/>

4 ダイバーシティ



貢献するSDGs

2025年のありたい姿

すべての人々の多様な価値観を尊重しつつ、
多様な市場価値を創出する事業を推進する。

重要と考える理由

今日、社会的要請として、従業員のダイバーシティや多様な働き方が広く企業に求められています。一方で、SUBARUは、今後とも多様な市場価値を尊重し、お客様の選択肢を増やすことに貢献する商品を提供することが、企業の持続的成長にもつながると考えています。そのためには、SUBARUグループで働く人々の視点にも多様性が求められます。

このように、SUBARUにとってのダイバーシティは、「商品のダイバーシティ」と「従業員のダイバーシティ」という、二つの重要な意味を持っています。SUBARUは、「商品のダイバーシティ」を追求すると同時に、「SUBARUグループで働くすべての人々のダイバーシティ」を推進していきます。

米国販売会社における従業員のダイバーシティ



5 環境



貢献するSDGs

2025年のありたい姿

企業活動を通じて「大地と空と自然」が広がる
地球環境を大切に守っていく。

重要と考える理由

SUBARUは環境方針のなかで「大地と空と自然」をSUBARUのフィールドと定め、自然との共生を目指す取り組みへの注力を掲げました。これは、自動車と航空宇宙事業を柱とするSUBARUの事業フィールドである「大地と空と自然」を大切に守っていききたいという思いを込めたものです。豊かな「大地と空と自然」が広がる地球環境があってこそ、社会とSUBARUの持続性が可能になるという考えのもと、オールSUBARUで地球環境保護に取り組んでいきます。

工場やオフィスおよび商品のCO ₂ 削減に向けた中長期目標		
カテゴリー	時期	目標
スコープ1、2 ^{※1}	2025年度	カーボン・ニュートラルを目指す
	2030年度	2016年度比30%削減(総量ベース)
スコープ3 ^{※2}	2050年	Well-to-Wheel ^{※3} で新車平均(走行時)のCO ₂ 排出量を、2010年比で90%以上削減
	2030年代前半	生産・販売するすべてのSUBARU車に電動技術を搭載
	2030年まで	全世界販売台数の40%以上を、電気自動車(EV)+ハイブリッド車にする

※1 オフィス・工場で排出するCO₂
 ※2 商品の使用時に排出するCO₂
 ※3 「油井から車輪」の意味。EVなどが使用する電力の発電エネルギー源まで遡って、CO₂排出量を算出する考え方を指す。

6 コンプライアンス



貢献するSDGs

2025年のありたい姿

誠実に行動し、社会から信頼され、
共感される企業になる。

重要と考える理由

SUBARUは、業務遂行において社会規範への意識が欠如していたことや社内ルールの不備、また業務遂行に関連する法令の理解が乏しかったことなどへの反省から、意識改革の必要性を痛感し、徹底した組織風土改革を推し進めています。お客様をはじめとするすべてのステークホルダーから信頼され、共感される存在となることを目指し、SUBARUグループ一丸となってコンプライアンス重視、優先の取り組みを進めていきます。

「コンプライアンス講話会」の様子



画像は2019年度

NEW LEVORG

新型レヴォーグはSUBARUに脈々と受け継がれる

「より遠くまで、より早く、より快適に、より安全に」というグラントツーリング思想を継承するとともに、SUBARUが現在持ち得るすべての技術を結集したクルマです。

最新の技術は日本のレヴォーグから。

この新型レヴォーグこそが、次世代SUBARUのトップバッターを担います。



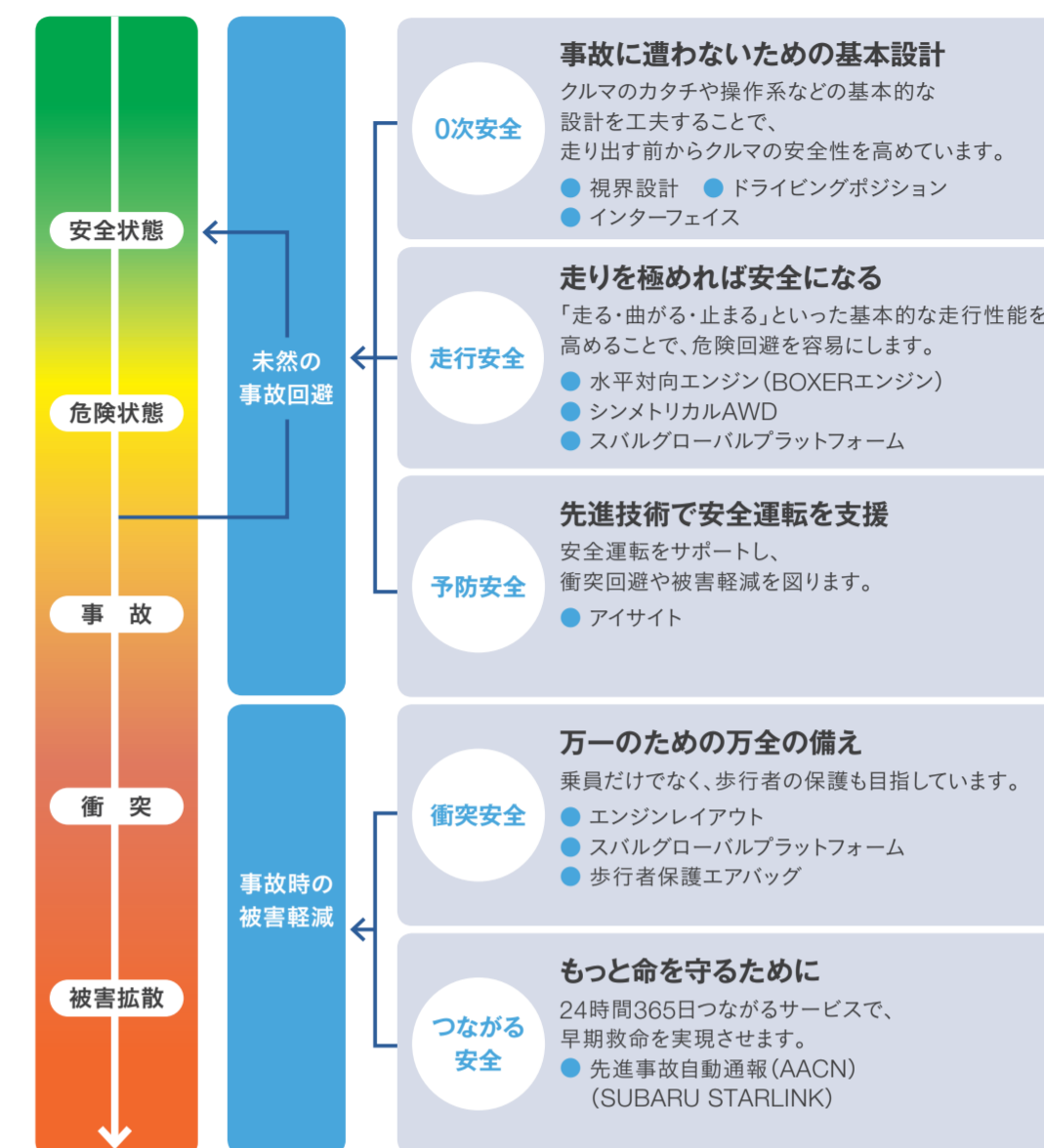
PHOTO：GT-H EX アイシルバー・メタリック スマートリヤビューミラーはメーカー装着オプション LEDアクセサリライナーはディーラー装着オプション 写真はすべてイメージです。

SUBARUの総合安全

2030年に死亡交通事故ゼロ※を目指す

SUBARUは、あらゆる視点からクルマの安全性能を追求し、従来の「0次安全」「走行安全」「予防安全」「衝突安全」の4つの分野をさらに強化するとともに、「つながる安全」を加え、2030年に死亡交通事故ゼロを目指します。

※ SUBARU乗車中の死亡事故およびSUBARUとの衝突による歩行者・自転車等の死亡事故をゼロに



スポーティ

SUBARU初採用



すべての瞬間に、爽快な走りの楽しさを。

新開発エンジン「1.8L BOXER 直噴ターボ“DIT”※」

SUBARUの走りへの情熱を結集し、全方位で進化させた新世代BOXERエンジン。エンジンのさらなる小型化・軽量化をはじめ、低回転域から300N・mの高トルクを発生させるターボシステム、少ない燃料でより多くのエネルギーを生み出すリーン燃焼技術の採用など、SUBARUらしい走りや優れた環境性能を両立するさまざまな技術を投入。レギュラーガソリンのため経済性にも優れています。

※ DIT=Direct Injection Turbo

SUBARU国内初採用



クルマで移動するすべての瞬間に、心地良さを。

「スバルグローバルプラットフォーム×フルインナーフレーム構造」

走りや乗り心地を高度に両立する「スバルグローバルプラットフォーム」をより高いレベルへと進化させるために、さらなる高剛性化と軽量化を実現する「フルインナーフレーム構造」を採用。意のままに操る楽しさをドライバーに提供するだけでなく、高速道路などでの安定した走りや、路面の凹凸を感じさせない快適な乗り心地、さらに振動騒音の少ない優れた静粛性を実現しました。

ワゴン価値

SUBARU初採用



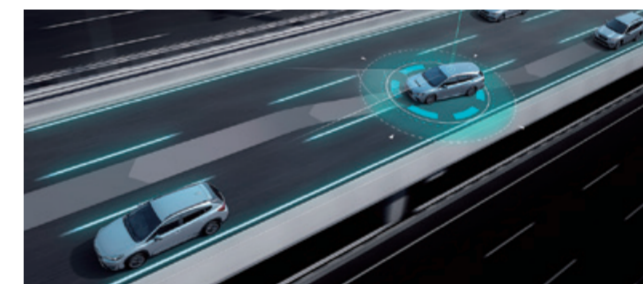
運転する喜びと移動の楽しさを広げる、先進のドライビング空間へ。「デジタルコックピット」

運転支援システムの作動状況などをグラフィカルに表示する12.3インチフル液晶メーター。大型かつ高精細の11.6インチセンターインフォメーションディスプレイ。そして、安全運転を守るドライバーモニタリングシステム。これらで構成されるデジタルコックピットがレヴォーグの先進性を際立たせるとともに、運転に必要な情報を瞬時に分かりやすく伝え、直感的な操作をサポート。まるで人とクルマが一体になったかのような、新世代SUBARUに相応しいドライビング空間を提供します。



先進安全

SUBARU初採用



自動車専用道路において、かつてないほど安心して快適な安全運転をサポートする「アイサイトX(エクセス)」

新世代アイサイトに「高度運転支援システム」を搭載した、最先端の安全テクノロジー。それが、「アイサイトX」です。GPSや準天頂衛星「みちびき」などからの情報と3D高精度地図データを組み合わせることで、自転車位置を正確に把握。ステレオカメラやレーダーでは検知しきれない先行の複雑な道路情報まで認識し、新次元の運転支援を実現します。運転を愉しめるシーンでは爽快に走り、ドライバーを疲弊させる渋滞時には、ハンズオフ走行と発進アシストによって運転負荷を大幅に軽減します。

SUBARU国内初採用



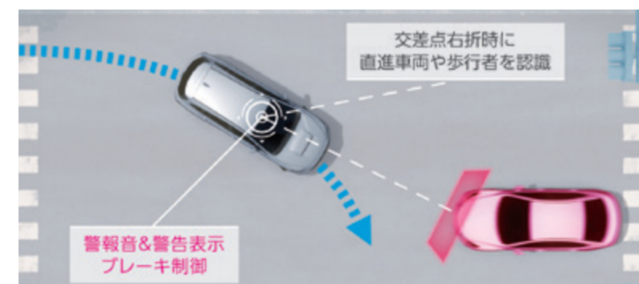
万一の事故や車両トラブル時に、大きな安心を。コネクティッドサービス「SUBARU STARLINK」

エアバッグが作動するような重大な衝突事故が発生した場合に、クルマが自動的にコールセンターに通報し、警察や救急、医療機関などと連携。より迅速に救命活動が行われるようサポートします。また、急な体調不良や車両故障などの際には、専用スイッチを押すとコールセンターに接続。24時間365日、状況に応じて適切なサポートを行い、ドライブの安心を一段と深めます。

CO₂削減のためのロードマップ

	2020年	2025年	2030年	2035年
BEV ^{※1}		202X		
		Cセグ SUVから市場投入		
ハイブリッド車	2012 Mild Hybrid (e-BOXER)			
	2018 Plug-in Hybrid			
		202X Strong Hybrid		
エンジン車			203X 全車 xEV ^{※2} 化	
	2020		2030年代前半までに世界中で販売するすべてのSUBARU車に電動技術を搭載	
	新開発1.8L BOXER 直噴ターボエンジン			
			※1 Battery EV	
			※2 xEV=電動技術を含むクルマ	

SUBARU初採用



これまで以上に幅広いシーンに対応する「新世代アイサイト」

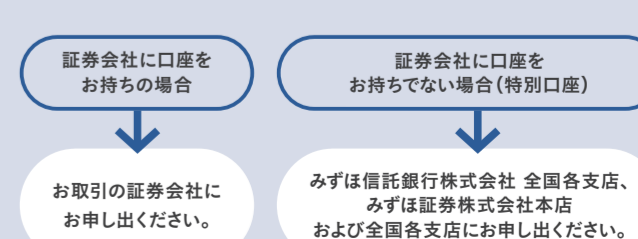
交通事故をなくしたい。その飽くなき想いととも長年にわたって研究開発を積み重ねてきた「アイサイト」が、いま革新的な進化を遂げました。視野を広げた新開発のステレオカメラに加えて、前後4つのレーダーを組み合わせることで360度センシングを実現。これにより交差点の右左折時や、見通しの悪い場所での出会い頭など、これまで対応しきれなかったシーンまで衝突回避をサポートします。



株主メモ

事業年度	毎年4月1日～翌年3月31日
公告方法	電子公告 https://www.subaru.co.jp/ir/stock/announcement.html ただし、事故その他やむを得ない理由によって電子公告を行うことができない場合は、日本経済新聞に掲載を行います。
株主名簿管理人および特別口座管理機関	〒103-8670 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問い合わせ先	0120-288-324 (フリーダイヤル/平日9:00～17:00)

住所変更、配当金受け取り方法の指定・変更、単元未満株式の買取・買増



未払配当金のお支払

みずほ信託銀行株式会社にお申し出ください。
0120-288-324 (フリーダイヤル)